

医学研究センター

安全管理部門

赤塚 俊隆
(部門長)

1. 部門構成

部門長 赤塚俊隆：微生物学(教授)

感染分野

部門長 赤塚俊隆：微生物学(教授)
部門員 渡辺典之：臨床検査医学(中央検査部)(技師)(平成25年度まで)
河村 亨：臨床検査医学(中央検査部)(技師)(平成26年度より)
堀江公仁子：ゲノム医学セ 遺伝子情報制御部門(准教授)
森 隆：総医セ 研究部(准教授)
宮里明子：国医セ 感染症・感染制御科(講師)
佐藤正夫：保医学部 健医科学科(准教授)

廃液等環境分野

副部門長 吉田喜太郎：教養教育 化学(教授)
部門員 西本正純：ゲノム医学セ RI実験施設(講師)
森 隆：総医セ 研究部(准教授)
安達淳一：国医セ 脳神経外科(准教授)
野寺 誠：保医学部 健医科学科(准教授)

DNA分野

副部門長 三谷幸之介：ゲノム医学セ 遺伝子治療部門(教授)
部門員 森 隆：総合医療センター 研究部(准教授)
池田正明：生理学(教授)
松井政則：微生物学(准教授)
千本松孝明：薬理学(准教授)
井上郁夫：内分泌内科・糖尿病内科(准教授)
江口英孝：先端医療開発セ(准教授)
長谷川幸清：国医セ(准教授)
荒木智之：分子生物学(講師)
池田和博：ゲノム医学セ(講師)
加藤英政：ゲノム医学セ(講師)(平成25年度まで)
伴場裕巳：保医学部 健医科学科(講師)(平成25年度まで)
横尾友隆：ゲノム医学セ(助教)(平成26年度より)
脇田政嘉：保医学部 健医科学科(講師)(平成26年度より)

動物分野

副部門長 森 隆：総医セ 研究部(准教授)
西川 亮：国医セ 脳神経外科(教授)
鈴木正彦：保医学部 健医科学科(教授)

仁科正実： 中央研究施設 実験動物部門(准教授)
横尾友隆： ゲノム医学セ(助教)

薬物分野

副部門長 丸山 敬： 薬理学(教授)
西本正純： ゲノム医学セ RI 実験施設(講師)
岸野 亨： 総医セ 薬剤部(部長)
藤田健一： 国医セ 腫瘍内科(講師)
鈴木正彦： 保医学部 健医科学科(教授)

RI分野

副部門長 小野 啓： 中央研究施設 RI 部門(講師)
飯塚裕幸： 中央研究施設 RI 部門(助教)
西本正純： ゲノム医学セ RI 実験施設(講師)
本田憲業： 総医セ 放射線科(教授)
西川 亮： 国医セ 脳神経外科(教授)
間瀬年康： 保医学部 健医科学科(教授)

2. 今年度の活動

感染分野

H25年4月にメール会議を開催し、H25年4月1日に施行された「病原体等管理規則」にもとづき、新規取り扱い者の教育訓練を行うこととした。実施は組換えDNA実験安全委員会と共催で行うこととし、7月の「実用実験医学講義」の1コマを使って赤塚委員長が行った。

廃液等環境分野

各診療科・薬剤部・研究室で発生する実験廃液、廃試薬については、各キャンパス毎に専門業者による委託処分が行われており、排水については施設部、市町村の下水道課、専門業者などが定期的な水質検査を行い、法令に遵守した排水基準を保っている。ゲノム医学研究センターにおいては、「組換えDNA実験指針及び実験系廃棄物処理の手引」を学内ホームページに掲載し、それによって各研究者が廃液等の処理を行うことにしている。また廃棄物委員会の下部組織として廃棄物小委員会を設置し、手引きには記載されない新たな薬品について、個別に迅速に対応できるようにしている。

DNA分野

平成25年4月から平成26年3月までの間に提出された、遺伝子組換え生物等の使用等における第二種拡散防止措置申請書類は51件あった。以上の申請について審議を行い、3月末までに承認されたのは41件である。また、内容変更承認願は15件、譲渡関係書類提出数は2件であった。今年度の教育訓練は、例年同様に大学院「実用実験医学特別講義」のコマの一つとして、赤塚部門長が行った。また、「埼玉医科大学組換えDNA実験安全管理規則」の見直しを行い、「安全主任者」を安全管理部門長(赤塚部門長)が務めることを明記することとした。それに加え、「議決には委員の2分の1以上の同意を必要とすること」と「委員会に関する事務局を設置すること」を明記することとした。なお、平成26年度より、ゲノム医学研究センターの加藤英政講師の代わりに横尾友隆助教、保健医療学部の伴場裕巳美講師の代わりに脇田政嘉講師が、新委員として加わった。

動物分野

学内にて実施される全ての動物実験は、各キャンパスに設置されている動物実験小委員会そして埼玉医科大学の動物実験委員会により動物実験計画書の審査・承認が行われている。平成25年度各キャンパスから提出された動物実験計画書224件、実験室設置承認申請書33件、飼養保管施設設置承認申請書1件、動物実験結果報告書・動物実験(終了・中止)報告書42件、施設等(実験室・飼養保管施設)廃止届5件、追加変更届49件について審議の結果承認した。さらに、随時メール会議を開催し、円滑に動物実験計画書、実験室設置承認申請書、飼養保管施設設置承認申請書の審議を行い承認した。遺伝子組換え生物等を使用した動物実験は、組換えDNA実験安全委員会により第二種使用等拡散防止措置承認申請書の審査・承認が行われた。また、本学におい

て承認された動物実験計画書・実験動物の飼養保管状況・飼養保管施設・教育訓練に関する情報公開を外部に行った。

薬物分野

麻薬申請の申請窓口が薬理学教室になったために、手順の内規を作成した。本年度は計10件の麻薬関連稟議書の申請を処理した。引き続き研究センターの事務部門の拡充を希望することとした。安全管理のため、セキュリティ強化を大学当局に求めることとした。基礎医学棟の地下通路の出入口の認証施錠、及び防犯カメラの設置について施設部に要望書を赤塚部門長より提出した。大学全体の薬物管理については、統合的に管理可能か検討し、赤塚部門長を中心として毒物劇物の一括管理について労働安全委員会と協議を開始した。研究用試薬の取り扱いについては、厚生労働省より提示された「試験研究施設における向精神薬取り扱いの手引き」やその他の薬物関連情報を学内HPへ掲載した。文部科学省から薬害団体より薬害に関する講演の要請について、すでに医学部2年生薬理学総論で薬害について講義が行われているものの、教育センターと連携して対応することとした。

RI分野

放射性同位元素の安全取扱いに関する新規教育訓練（放射線の人体に与える影響、放射性同位元素安全取扱い、放射線障害防止関連法規、放射線障害予防規程）を5月に開催した。基礎医学棟3階会議室で午前10時より午後4時30分まで行い、参加者は2名であった。既登録者のための再教育訓練は3月に開催した。今年度、RI研究施設に放射性動物の乾燥装置を新しく設置し、放射性動物の適切な処理を行っている。